

2008年3月期第1四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q.国内旅客が計画を下回っているようだが、挽回の戦略は何か？6月旅客数回復の背景は？

A.

- ・FAM\*、PROS\*で蓄積しているマーケティングデータを活用して、路線毎にきめ細かく対策を講じています。 \*FAM = Fleet Assignment Model \*PROS = Passenger Revenue Optimization System
- ・東京―福岡線は個人旅客の比率が高いため、割引運賃において他社との価格差を縮めました。これにより、5、6月は需要を摘み取ることができました。
- ・東京―札幌線については、単価を下げることなく、様々な方法で需要喚起を行い、イールドを高めて収入を上げました。

Q.国内旅客の第1四半期(1Q)の減収分は第2四半期(2Q)で補えるか？更なる対策は？

A.

- ・4、5月の需要低迷により国内旅客の計画未達はありましたが、国際旅客、貨物の好調により収入全体としてはほぼ計画通りとなっています。
- ・夏休み期間中の臨時便設定で需要の摘み取りを行ったり、路線ごとにイールドに留意しながら運賃設定をきめ細かく行うことなどにより、他社との競争力を高めて増収をはかります。
- ・また、下期からの羽田増枠による増便も、増収に貢献する見込みです。

Q.羽田の国際線について増便が可能になったようだが、具体的な路線などは決まっているのか？

A.

- ・深夜発早到着という制約はありますが、積極的に展開していきたいと考えています。具体的な路線は検討中です。

Q.国際線ビジネスクラスの足元の状況はどうか？1Qのイールド改善はビジネスクラスが寄与しているのか？

A.

- ・ビジネスクラスは引き続き全方面において好調です。1Qのビジネスクラスの旅客数は10%以上伸びており、また、収入は旅客数を上回る伸びで全体収益を牽引しています。
- ・特に生産力を増強したアメリカ線及びアジア線のビジネスクラスの旅客増が大きく収入に寄与しています。この傾向は今後も続くものと思われます。

Q.費用内訳で当初想定と違う部分は？

A.

- ・ほぼ想定通りですが、国際旅客の好調によりそれに連動して販売手数料が増えており、また、その他セグメントの商社事業が好調なので、それに伴う仕入れコストが増えていますが、これらは収入増と連動しています。
- ・また、コードシェア等の開始が計画より遅れたため機材賃借費が減少しています。

Q.燃油費の状況は？今後見直す必要はあるか？

A.

- ・1Qにおいては燃油費は約110億増えていますが、ほぼ想定通りとなっています。
- ・1Qの市況が通年で継続すれば、予定通りに推移するものと見ています。

Q.航空貨物は荷動きが低調で厳しい状況のようだが、ANAの状況は？

A.

- ・貨物に関しては、基盤ネットワークの整備を進めており、積極的に摘み取りを行っています。1Qの収入は計画どおりに推移しています。

以上